

「私の考へでは日和が宜いので花見にでも行くと思ふね」

「何や、かたげて居るなア」

「辨當やろと思ふ、此處へ來たら尋ねる依てに、側で聞いてや、モシ、ヘンチキの大將何處へお越だす」

「イヤ、大將と言れますと恐れ入りまんな、あんまり日和が宜いので内にも居られんで」

「成程、花見にでも、御越だすか」

「イヤ、今日は墓見に行くのんや」

「ヘエ、花見だつしやろ」

「イヤ、墓見やがな」

「墓見て何だす」

「石塔や、塔婆を見て一杯飲むのんや」

「オイ喜イヤん、變つてるなア、石塔や、塔婆を見て一杯飲むねと、モシ源さん、なんやかたげて居るなア」

「ヘンチキでも、腹が減るで辨當や」

「甚い大きな辨當だすなア」

「フム、おまるや」

「ア、おまる、フフ、片一方は」

「酒やないか」

「入物は」

「しゆびんや」

「しゆびんだつか」

「しゆびん酒の、おまる辨當や」

「其れは、新だつしつしやろうなア」

「兩方とも、古いのんや」

「アの古いのだすか、ア、氣持の悪い」

「どうや、一緒に墓見に行て一杯飲みなか」

「イヤ、結構だす、聞いただけで胸が悪ふなつて來た、マアあんた行つて來なアれ」

「そうか、そんなら俺一人で来て来るは、さてよ、私も世間からヘンチキの源助と言はれてるのに人が花を見に行くのに、私も花を見に行たら面白くない、人が山へ行くと言へば、海へ行くと言ふのがヘンチキや、花見に行くつもりで出て來たが、今日は一ツ、墓見に行つたら」